

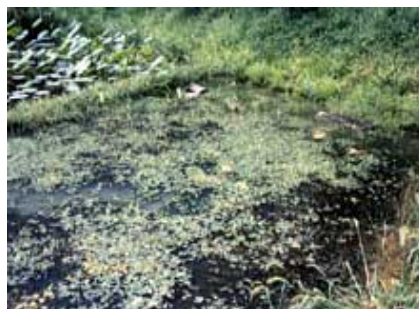
クロイトトンボ

Cercion calamorum calamorum



撮影者：高桑 正敏氏

<生物の写真>



<環境写真>

分類群	魚類	貝類・甲殻類	爬虫類・両生類	昆虫類
種の特性	絶滅危惧種	危急種	希少種	外来種
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸
			東海	近畿
				中国・四国
				九州
				沖縄

【分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。北海道や東北地方では産地が限られる。離島では佐渡島、淡路島、隠岐、奄岐、対馬、五島列島、天草諸島、甕島列島、種子島などにも分布する。

【名前の由来】

黒っぽい体色に由来している。

【形態的な特徴】

体長 33mm（腹長 雄21～27mm、雌22～29mm。後翅長 15～22mm）ほどで、雌の方が少し大きい。体色の黒味が強く、成熟した雄では頭・胸部と腹部の基部周辺に、やや藤色がかった白粉が厚く吹きでるのが特徴である。その他にも雄の腹部背面は第8・9節のみに青色があり、そのそれぞれの節に二山型の黒斑があること、尾部付属器の上付器は下付器よりずっと長く八の字型に開いていることで、他種と区別できる。雌の特徴としては、前胸の背面の大部分が黒色であることが挙げられる。

幼虫は、体長 14～16mm（側尾鰓長 4～6mm）ほどで、褐色から紫がかった黒褐色のヤゴである。

【生態的な特徴】

成虫は4月から9月頃に見られ、とくに5月から8月に多い。幼虫はおもに午前中、水面にでた挺水植物の茎や浮葉植物の葉上などいろいろな部位に定位して羽化する。羽化後の新成虫は水域付近にある林などに移動して生活する。成熟した雄は水面に浮かぶ葉の上などに止まって縄張りを張る。交尾などの配偶行動はおもに日中におこなわれ、雌雄が連結したまま浮葉植物や藻などの水面に近い部位の植物組織内に産卵することが多い。ときには、完全に水中にもぐって潜水産卵する場合もある。このとき呼吸は体中に生えた毛の間に残った空気によっておこなわれる。

【生息環境】

おもに平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する池沼などに生息しているが、ハスの生えた公園の池など、人工的な水域でも見られる。幼虫は、水中の植物などにつかまって生活している。

【生息状況】

かつては、水生植物のまばらな小規模な池沼、水溜まりなどにも普通に見られたが、近年ではこのような水域でもあまり見られず、確認できても個体数は少ない。

【生態系保全のための留意点】

分布域が広く、生息環境も池沼（人工的な水域を含む）から水田と幅広いため、農薬の過剰散布や水辺環境（水域および水生植物）の消失がなければ、たいていは存続し続ける種であるといえる。しかし、生きた植物の組織内に卵を産みつけるため、水域内および付近の水生植物の確保が重要になる。また、クロイトトンボの成虫は開放水面を好む傾向が強いいため、水生植物が繁茂しすぎないように配慮する必要がある。